

日露戦争と ポーランド・日本の関係

講師 エヴァ・パウシュ＝ルトコフスカ 博士
Profesor Dr. Ewa Pałasz-Rutkowska

日時 2025年6月2日（月）
午後5時00分ー6時30分ごろ

場所 東京大学 本郷キャンパス
法文1号館 113番教室

※ 日本語使用、事前予約不要



講義内容

2025年は日露戦争開戦から120年です。本講演では、ポーランドの視点から日露戦争期の国際関係を見つめ直します。ピウスツキとポーランド社会党を中心に、ドモフスキと民族連盟にも触れながら、激動の時代におけるポーランドと日本・ロシアとの関係を再考します。東欧からロシア・日本がどのように見えていたのか、を学べる貴重な機会です。

講師プロフィール

ワルシャワ大学日本学科教授。2019年度国際交流基金賞受賞。日本史・日本ポーランド関係史を中心に多くの業績を有する。ワルシャワ大学は東京大学と協定を結び、長年にわたって学術交流を積極的に進めてきましたが、パウシュ＝ルトコフスカ教授はその交流の中心的な役割を担う存在です。

主著：

- 『明治天皇ー日本の近代化における天皇のイメージ』（ワルシャワ、2012年）
- 『日本の対ポーランド外交政策 1918-1941』（ワルシャワ、1998年）
- 『日本・ポーランド関係史 増補改訂 1904-1945年』（共著、柴理子訳、彩流社、2020年）
- 『日本・ポーランド関係史II 1945-2019年』（白石和子訳、彩流社、2021年）

